

活動成果報告書

平成28年度（第20回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

高齢者の最大の役割は、子育て
～全世代参加型の支えあいのしくみづくり～

応募グループ名称及び氏名（グループの場合は代表者名）
水島支所 水島保健福祉センター 水島保健推進室
代表者：出宮 真里子

勤務先：水島支所 水島保健福祉センター
所 属：水島保健推進室
所在地：〒712-8565
岡山県倉敷市水島北幸町1-1
TEL：086-446-1115
FAX：086-446-1153



◇活動方針

倉敷市は、倉敷・児島・玉島・水島・真備の5地区で構成され、人口は483,805人、高齢化率26.1%（H28.6月末現在）である。ここ水島地区は、人口89,336人、高齢化率24.8%であり、独居高齢者世帯の割合が32.0%と倉敷市の中でも最も高い状況にある。また、約60年前から行っている企業誘致により、石油コンビナート・工業地帯など40以上の大企業の事業所が立地している。そのため、県外から就労のため単身や夫婦で転入してくる世帯が多いが、長年居住している地域住民と転入者は、お互いの関係が築きにくく、身近な生活圏内のコミュニティ形成が難しい。結果、独居高齢者等も孤立しがちな現状である。高齢者世帯は今後さらに増加すると推計されているが、この水島地区の特性からくる現状を改善するために、高齢者も含めた住民一人ひとりが自分たちの能力を発揮し、地域のつながりや住民の力をいかす地域づくりが重要である。そのために、住民や関係機関と連携・協働し「全世代参加型の支えあいのしくみづくり」をめざし、高齢者の役割を見出すために、高齢者を子育て支援につなぐための取り組みを行う。

◇活動内容とその成果

1 活動内容① 新たな高齢者の社会参加の場「健康サロン」の立ち上げと声かけ活動

平成21年度、主に運動することによって健康で年を重ねられる高齢者を増やすことを目的に、「エンジョイスポーツの会」を住民と協働で立ち上げた。その後、参加者が増加したため、平成25年度から、「エンジョイスポーツの会」を「健康サロン」と名称変更し身近な小学校区単位へと波及させる取り組みを行い、16箇所の健康サロンを立ち上げた。また、既存の27箇所の高齢者サロンと16箇所の健康サロンの運営者等を対象とした交流会を開催し、より充実した運営に向けて話し合いを重ねた。結果、高齢者を高齢者サロンや健康サロンにつなぐ声かけ活

活動成果報告書

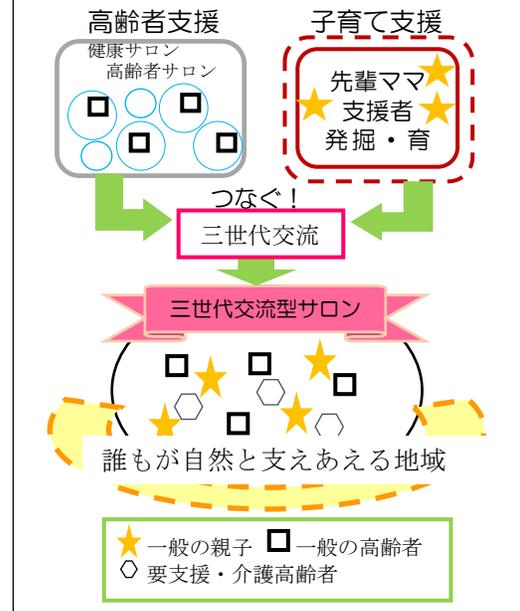
動が積極的に実施され、参加者が確実に増加している。

2 活動内容② 若い世代キーパーソンと協働した高齢者の社会参加の場を増やす取り組み

(1) 若い世代の地域キーパーソンの発掘・育成

平成 25 年度から取り組んでいる「健康サロン」等への参加者数は年々増加している。しかし、健康サロンの運営者から、運営者の高齢化や後継者不足の問題があがり、「高齢者が高齢者を支えるしくみ」から、「高齢者を若い世代で支えるしくみ」へと取り組みを拡大していく必要性を感じた。そのために、まず、若い世代の支援者の人材発掘・育成が重要であるため、行政が実施している乳児教室に参加するママ世代を対象に、「地域住民との支えあい」に関心がある人材を発掘した。最初から高齢者支援ではなく、イメージしやすくつながりやすいものとして、ママ世代を先輩ママとして支援する活動から取り組みを始め、平成 26 年度に、ママ支援者の会「はびばる」を立ち上げた。

図 1：子育て・高齢者支援の融合



(2) 高齢者と若い世代をつなぐ「三世代交流」

「はびばる」メンバーは、県外からの転入者が多く、人とのつながりを求めている人が多かった。そのため、「はびばる」を中心に、健康サロン運営者・高齢者支援センター（地域包括支援センター）・地域子育て支援拠点・行政で、「高齢者と若い世代をつなぐ三世代交流」実施に向けて、話し合いを重ね、平成 27 年度、高齢者が参加する健康サロン 10 か所で、親子も参加する「三世代交流」を実施した。結果、参加した親子には、特別な支援が必要ではなく、交流するだけでも、高齢者支援につながるとの気づきが生まれた。このように、「高齢者と若い世代をつなぐ三世代交流」を意識的に働きかけたことで、「はびばる」メンバーが、ママ支援者から高齢者支援を含む地域のキーパーソンへ成長した。

(3) 若い世代キーパーソン運営の「三世代交流型サロン」の立ち上げ

三世代交流を経験した「はびばる」メンバーからは、「年に 1 回の単発型三世代交流」から、「月 1 回定例型の三世代交流型サロン」の立ち上げを希望する声が上がった。そのため、「はびばる」を中心に、高齢者支援センター（地域包括支援センター）・高齢者施設・地域キーパーソン・行政で、三世代交流型サロンの立ち上げに向けて予算・会場等の話し合いを重ねた。結果、平成 28 年 4 月、モデルエリア（連島エリア）で、元気な高齢者を対象にした「（三世代交流型）はつらつサロン」と、認知症・車椅子利用している高齢者等要支援者を対象にした「（三世代交流型）きらきらサロン」の 2 か所が立ち上がった。

参加した高齢者からは「自分は何もできないと思っていたが、子どもを膝の上に抱いてあげるだけで、母親から感謝された」、車椅子の高齢者の家族や施設関係者からは「施設で、職員が声かけしてもなかなかリハビリをしないのに、子どもから渡されたおもちゃを受け取ろうと一生懸命手を動かそうとしている姿に感動した」等の喜びの声が届いている。発足後約 8 か月経過したが、親子・高齢者共に参加者が増加している。

(4) 新たな活動展開

「（三世代交流型）きらきらサロン」は、高齢者支援センター（地域包括支援センター）を介して高齢者施設とつ

活動成果報告書

ながりを持ち、目的を共有できたことで高齢者施設での開催が可能となり、利用者である地域の高齢者と親子の交流が実現している。地域には数多くの高齢者施設が存在しており、地域交流スペースを活性化させたい等三世代交流に対して関心の高い施設も多い。そこで、地域のニーズをつなぐ形で他のエリア（福田エリア）でも高齢者施設と「はびばる」との交流を試行錯誤の中で実施中である。また、水島エリアでは、三世代交流に関心のある、既存の高齢者が集う「おしゃべりC a f e」の運営者と「はびばる」をつなぐことにより、高齢者と親子が集う「三世代型おしゃべりC a f e」へ展開する等三世代交流の場は様々な形で拡大している。参加した高齢者からも「今まで高齢者しかいなかった場に子どもがいるだけで、自然と笑顔がでる」「子どもたちが参加していない日は寂しい」「もっと子どもたちが来る日を増やしてほしい」等の声があがっている。

一方、「はびばる」はママたちの集まりであるため、活動の中心を担っているメンバーが次々と第2子を妊娠したり、職場復帰したりするという状況が起こっている。その都度メンバーが活動を一時休止するという特性があるため、新たなママ支援者の人材発掘・育成を積み重ねていくことが不可欠である。

3 活動内容③ 子育て支援センター・保育園等と連携した高齢者の社会参加の場を増やす取り組み

若い世代のキーパーソンが運営する「三世代交流型サロン」や、高齢者施設や既存の高齢者サロン等での三世代交流が好評で、新たな三世代交流の展開に期待が高まっている。一方、若い世代のママキーパーソン数や三世代交流の会場等課題が残る。そこで、高齢者の社会参加の場や高齢者の能力が発揮できる場を増やす取り組みとして、既存の子育て支援の場の活用を行った。子育て支援センターや保育園と連携し、日々実施している行事に地域の高齢者が参加できるプログラムを意識的に作り、高齢者等が子育て支援の場に参加できるしかけを行った。結果、子育て支援の場に積極的に出向く高齢者も多くなり、高齢者の役割や社会参加の場が広がっている。保育士からは「ご高齢の方々は、職員よりも人気がある。職員や保護者の忙しい中での対応でなく、ゆったりと笑顔で関わる高齢者の対応が魅力的だった」との評価の声が届いており、あらゆる場で高齢者の子育て支援の役割が評価されている。高齢者が「子育て」という役割を担える場を意識的に作り、意識的に役割の評価やねぎらいの声かけを積み重ねることで、今まで支援を受けていた高齢者が、役割を担う支援者へ変化し成長していった。

◇今後の計画

- 1) これまでの行政の取り組みには、世代別や障がいの有無に応じて縦割りに実施してきた傾向がある。しかし今回は、地域を1つの単位とし、世代や障がいの有無に関係なく、「誰もが自然に支えあえる地域」を意識した地域包括ケアシステムが自然な形でできつつある。若い世代を軸として高齢者の経験や知恵を引き出す様々な場を作り上げたことで、若い世代も高齢者も一人ひとりがお互いの能力を自然と認め合い、発揮できる地域のしくみづくりに繋がっていったと思われる。今後も、高齢者の役割を見出すための場を維持・展開していくために、引き続き新たなママ支援者の人材発掘・育成を長期継続的に積み重ねていく必要がある。
- 2) 子育て支援センターや保育園と連携した三世代交流プログラムは、モデル的に実施し成果を上げている。今後、この取り組みを、他の子育て支援センター・保育園、さらに、幼稚園・小学校・中学校へと広げ、高齢者とあらゆる世代が切れ目なく支えあえる「全世代参加型の支えあいのしくみづくり」を目指したい。